



☀️	食品団地	4月度商況は、県内・県外ともに活発。食品業界では未だに原材料の高騰・エネルギー価格の上昇によって、全体的な経費増加への対策に頭を悩ます状況が続いており、先行きの明るさを心配する声が多く聞かれる。
----	------	---

☁️	テントシート	原材料の高騰を販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。イベント関連事業については、コロナ禍前に回復したように思う。
	木製品素材生産	入荷量は例年並みとなっている状況。丸太価格については、品物(樹種)により違いはあるが、全体的には横ばいか若干値下りしている状況。今後、害虫も少し始めていることから価格に影響が出てくるのではないかと心配されるところ。
	建具	公共及び民間の大きい仕事が少ない。個人住宅のリフォーム関係の仕事は少しある。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体では、昨年同月比で売上金額及び販売量は下回っている。その中で雑種紙の売上金額及び販売量が思わしくない。しかし、衛生用紙のティッシュペーパー及びトイレットペーパーは、前年同月比で販売数量が伸びている。
	製紙(手すき和紙)	先月は売上が少し持ち直し、このままの状況が4月も継続している。ほんの少しだけ、改善の兆しが見えつつあるが、良い状況になればと願っている。
	コンクリート製品	対前年同月比74.6%。
	刃物製造	今月も前年に対し、売上が落ちてしまった。相変わらず、品の出来上がりが遅く、得意先に迷惑をかけてしまっている。今月より価格改定があり、値上げをするが、旧価格での受注があり、しばらくは従来の価格で出荷しなければならぬ。
	機械団地	団地内の業況は業種業態によってバラツキがあるも、概ね横ばいの状況である。新年度のスタートとなる4月から、即戦力となる人材や現場管理者の不足が顕著になっているとの声がある。
	船舶製造	受注・売上ともに順調で高操業が続いている。取引条件は、手形サイトが60日となったため、代金の受取では好転となるが、支払いでは資金繰りがタイトになるため悪化となっている。
	珊瑚装飾品製造	4月度の取引額は前年同月比167%、コロナ禍前(令和元年4月)と比べても126%と回復傾向にある。
	卸団地	昨年同月比は同じような売上になっているが、経費の面で上昇しており、昨年より利益が出にくい様子。景気回復は感じられない。
	青果卸売	入荷状況(昨対比) 野菜:数量98%・キロ単価110%、果実:数量87%・キロ単価132%。3月に比べると入荷量・キロ単価の高止まりは解消しており、売上高は増加(約5%)しているが、収益の面では少々苦しい面も考えられるかもしれない。
	生鮮魚介卸売	今月は売上高が前年を少し下回った。GWに向けてカツオが順調に入荷した。やはり県外客には売れている。
	各種小売(土佐市)	少し人が動き出したような気がする。このままGWに期待する。

☔️	中古自動車小売	オークション相場の高騰により仕入れに苦戦している。業界全体のタマ不足も重なり、高年式の仕入れは特に厳しいが、注文数は増加傾向にある。
	商店街(高知市)	駐車場状況:利用台数は前年の91.4%(▲2,155台減)、料金収入は前年の93.8%(▲521千円減)。令和6年4月のクルーズ船の入港は14隻(前年10隻)となり、免税売上についても対前2.8倍(高知大丸含む商店街)となり、入港時は中心商店街全体で賑わいがあつた。(※高知大丸免税一括カウンター集計)
	商店街(四万十市)	県外ナンバー車が増えた。バス停に並ぶ人のほとんどが外国人であったり、お遍路さんも外国人が多い。レンタルサイクルの稼働率も良い。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比76%、全旅クーポン合算同月対比166%。前月同様、組合クーポン利用減少が続いている。受入施設側の地方事業組合への対応が大変厳しい。利用額減少に対する契約更新時期の更新打ち切りあり。
	IT事業	年度末の駆け込み需要が昨年同様、以前より少なく、減少傾向にあつたように感じる。コロナ制限解除から1年経ったが急激な円安などへの不安からか設備投資等を控えている印象。今後の傾向を引き続き注視する必要があると思われる。
	クリーニング	売上高は価格改定により増加したが、資材・エネルギー価格も上昇しており、収益の増加には至っていない。今は衣替え時期の繁忙期であり需要はあるが、節約志向の影響が点数減の企業は多い。人件費は上昇する一方で、価格転嫁が追いつかない現状がある。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比134%となった。各地区で増減があつたが、特に高知中央地区の伸びが大きい。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:111.2%、輸送回数:103%、実働率:52.2%。日本版ライドシェア(自家用有償)が東京都都市部で始まった。これは運転者不足を補うためのものでタクシー会社の管理のもとで一般のドライバーによりお客様を輸送し、料金はタクシーと同じで運行している。高知市ではまだ車が足りていないところまでいっていないため、タクシー事業者でライドシェアを考えているような動きはない。しかし、運転者はなかなか増加することなく、困っている。	

☔️	酒類製造	県内全体では減少傾向が続いているが、企業によりばらつきがみられた。輸出はやや回復傾向。全体としては消費の復活には至っていない。
	製材	引き続き荷動きは鈍く、プレカットの需要は減少傾向。
	印刷	売上は不変、設備操業度は低下と低迷状況。内容的には県外需要及び県内需要も一部の企業では好調傾向が見られる。しかし、全般的に見れば低調な企業が多く操業度は低下という厳しい結果となった。
	生コンクリート製造	4月度の全組合員の出荷量は、対前年比84.2%であった。昨年度末より続く減少傾向は年度が変わっても継続している。公共工事の減少が要因と考えられる。地域的には、中部及び高幡を除く地区で対前年比出荷量が減少している。
	電気機械器具小売	4月度は、全商品平均で前年比95%。大画面テレビ前年比92%、省エネタイプエアコン98%、エコキュート102%だった。
	ガソリンスタンド	原油価格は上がり下がりを繰り返している。為替相場の円安ドル高もあり補助金は4月末では30円/Lを超えている。また、全国の販売価格も上げ下げの繰り返りとなっている上に、イスラエル・ハマス、ロシア・ウクライナの戦争等の状況により先は読めない。
	商店街(安芸市)	商店街の組合員をはじめ周辺の協力機関などへ声をかけ、お花見会を実施。約60名の参加があつた。当日は、あいにくの雨であつたが、コミュニティセンターに桜の枝を飾り、商店街店主お手製の焼きそばや、就労継続支援B型事業所「こうち絆ファーム」がナスのつみれ汁を作って振る舞った。日頃は中々聞けない話やご意見をいただきながら、楽しく交流ができた。これをきっかけにもっとたくさんの方々との交流を深めていきたい。
	旅館・ホテル	宿泊は3月より比較的堅調に推移しているが、昨年ほどの勢いはない。5月以降の動きが鈍い。宴会部門は5~6月の総会時期は順調に受注あり。一方、婚礼は依然として低調である。
	飲食店	前年同月比の売上高は同程度。前年度同月に比べ、光熱費や仕入れ価格は高騰し人件費も上昇しているが価格転嫁は十分ではない。コロナ禍以前との売上比較は約8~9割。売上高の回復は頭打ち状態で特に変化は見られない。販売個数は減少、前年同月に比べ収益は悪化している。電気・ガス等のエネルギー、大手メーカーの原材料等の大幅な値上げに対し、顧客離れや売上の低下等の懸念から業界の価格転嫁力は低い。
	一般土木建築工事	令和6年4月分の県下の生コンクリート総出荷量は、前月比84.2%、前年同月比83.9%。そのうち、共同販売事業に係る出荷量は12,807m ³ と全体の32.5%と低調。全国生コンクリート工業組合による令和6年度の生コン総出荷量は、7,000万m ³ を需要想定段階で初めて割り込む6,950m ³ 、当組合の関係する公共工事等官公需は、前年対比▲6.1%の2,185万4千m ³ となっている。高知県も同様の傾向にあり、6年度の総出荷量予想は、59万m ³ (前年実績58万9千m ³)としている。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、主に賃金アップの原資としてm ³ 当たり1,000円の値上げを5月契約分より実施。また、小型車搬送についても値上げ実施。
	一般貨物自動車運送	燃料価格は1円程度の値上げとなった。荷動きは鈍い状態が続いており、ドライバー不足は変わらず、2024年問題による輸送形態の変化など組合員企業の経営は厳しい状態が続いている。組合事業も前年を数%下回った。